

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立各務原西高等学校

学校番号

12

I 令和3年度 自己評価

教務

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 基礎学力の定着と応用する力の育成
教育課程を通して、基礎・基本となる知識・技能を身につけさせるとともに、その力を応用できる思考力・表現力・判断力を育成する。
- (2) 探究する姿勢の涵養
様々な事柄に興味を持ち、より深く探究しようとする姿勢を涵養する。
- (3) 学習環境の確立
授業を通して、マナーや物事に取り組む姿勢を身につけさせ、次のステップで活躍できる基礎を身につける。
- (4) 教育課程の編成
単位制高校としての在り方について検討を深め、新学習指導要領の主旨を実現する教育課程を編成する。
- (5) 業務量の低減
教員の働き方を見直し、業務量の低減を図る。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (5) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 夏休み明けのオンライン授業には、タブレットを用いて6回線を使った文理別の授業を配信することができた。通信環境の整わない生徒には、モバイルルーターの貸出を行った。登校しての視聴も行き。すべての生徒に授業を届ける環境を作ることができた。
- (2) Classiの活用を進め、オンライン授業での教材配付・授業指示や、通常授業の開始後も、それらの取り組みを継続してICTを取り入れた授業を積極的に推進することが出来た。
- (3) 単位制高校として本校のあるべき姿と生徒の実態を踏まえて、来年度の学習指導要領の実施に向けた教育課程の編成をすることができた。
- (4) 1、2年次での「総合的な探究の時間」では、休業期間等による変更があったものの、目的や目標を踏まえて、計画的に実施することができた。2年次では、昨年度できなかった「大学学科別ガイダンス」も実施することができた。

改善すべきこと

- (1) 総合的な探究の時間は、計画に基づき推進できたが、「生徒及び保護者を対象とするアンケート」では、意義を感じにくい生徒が20%いる状況である。来年度の実施については、より生徒が有意義に感じられるように検討が必要である。
- (2) 新学習要領に実施に伴う教育課程を編成することができたが、「観点別学習状況評価」の評価方法を確立し職員内での共通理解のもとで実施していくことが喫緊の課題となっている。
- (3) 担当している業務について、重要度・緊急度を適切に判断して、業務量を低減する。

生徒指導

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観と規範意識を身につけ、主体的な判断や責任ある行動ができる生徒を育成する。
- (2) 安全で安心な学校生活を送れるよう全職員で組織的な生徒指導を目指す。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | |
|---------|-------|---|-------|---|-------|---|-------|------|
| (1) 高い5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (2) 高い5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 登校指導や遅刻指導で生徒への声掛けや生徒観察を行い、HRT や部顧問への情報共有を行うことで予防的指導を積極的に行うことができた。
- (2) 職員会議で情報共有を行い、全職員との共有を行うことができた。
- (3) 月に1回のスクールカウンセラー訪問時だけでなく、スペシャリストサポート事業を活用し、生徒や保護者の相談に応じることができた。
- (4) 生徒の実態に応じてルールの見直しを行うことができた。（スマホの使用許可申請の廃止）
- (5) MS リーダーズがあいさつ運動や清掃活動を行うことにより、全校生徒にあいさつの励行や落ち着いた学校生活を送る雰囲気づくりを促すことができた。

改善すべきこと

- (1) 不登校生徒、不登校傾向生徒の情報共有をさらに綿密に行う必要があると感じた1年であった。
HRT や部顧問、教科担任は、気になる生徒に関する情報を素早く共有する。「校内生徒連絡票（教育相談）」の用紙の回覧に「部顧問」と「養護教諭」も入れる。コロナ禍で、教員間のコミュニケーションが取り辛い状況であるが、必要な情報は小まめに共有する。
- (2) カウンセリング希望者が多いので、スケジュール調整をスムーズに行う。
- (3) 保健室と同様に教育相談室の利用時間も制限を設けたい。教育相談室常駐の教員が誰もいなくなる時間もあり、身動きが取れなくなるケースがあった。
- (4) 面談週間の放課後の時間を確保するため、他の行事や会議が入らないようにする。
- (5) MS リーダーズの活動をさらに活発化し、活動内容や運営の立案等、委員長を中心とした主体的な活動にしていきたい。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 安易な進路決定に流れないように進路意識の高揚を図る。
- (2) 適切な進路情報を幅広く提供し、主体的な進路探究を促す。
- (3) 自ら学ぶ意欲を引き出し、自律的な学習習慣を身につけさせる。
- (4) 個々の志望に応じたきめ細かな指導を充実させ、大学入試に対応できる学力を養成する。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | ③ | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 年次ごとに外部講師による進路講演会を実施し、進路目標達成のために必要な力や心構えなどを聞くことで、進路意識の向上につなげることができた。
- (2) 「進路だより」を毎月発行し、その時期に必要な情報を伝えることができた。また、「進路の手引き」に先輩の『合格体験記』を記載し、最後まで諦めずに学習することの大切さを伝えることができた。
- (3) 放課後の学習室解放により、自律的に学習できる環境を整え、自主的に学習する生徒の支援ができた。
- (4) 土曜補習や夏季補習においてハイレベルな講座を開講することで、大学入試に対応できる力をつけることができた。また、学校推薦型選抜に向けて、小論文指導や面接指導を全校体制で実施することで、生徒個々への濃密な指導ができた。

改善すべきこと

- (1) 3年間を見通したキャリア教育の在り方を考え、より効果のある進路ガイダンスや進路講和・進路探究の内容を考える。
- (2) 生徒が必要とする大学入試等についての新しい情報は、こまめにタイムリーに確実に発信していく。
- (3) コロナ禍での体験学習（オープンキャンパスや大学の主催する講座、体験型プログラム等）やインターンシップ等への参加については、十分な安全確保のもとで、自主的・積極的な参加を推進していく。
- (4) 学校推薦型選抜や総合型選抜に対して、今の時代に適した学校としての指導の在り方を再考し、職員の共通理解を図る。
- (5) 生徒の学力や適性を客観的に判断できるように、進路アンケートの内容を見直す。また、これまで通り外部模試や適性検査などを有効に活用し、生徒個々の指導に活かしていく。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 生徒会活動の充実
- (2) ホームルーム活動の充実
- (3) 学校行事の充実
- (4) 部活動の充実
- (5) 各種交流活動・ボランティア活動の充実
- (6) リーダー性や自主性の発揮

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | ③ | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (5) | 高い | ⑤ | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 執行部と各委員会および議会とが連携し、コロナ禍での青桜祭などの実施に向けて取り組むことができた。
- (2) 前期は、文化委員が中心となり「文化祭クラス企画」について3回の統一LHRを行い、後期はHR委員が中心となり、生徒会が選んだテーマで「統一LHR」を行った。
- (3) 文化祭や体育祭（球技大会）に向けて、生徒主体で運営できるようになってきた。文化祭は直前で中止となってしまったが、その準備とOP企画は、文化祭実行委員が中心となり、生徒の手で創り上げることができた。体育祭は球技大会の形であったが、準備までは生徒主体で行うことができた。ただ、当日は年次別となったため、体育科職員に頼る場面が増えてしまった。
- (4) コロナ禍で思うような活動ができない面の多かったが、部顧問が互いに連携し、生徒との信頼関係を築きながら、限られた活動時間内で、熱心に指導をし、充実した活動を行った。
- (5) 昨年度に引き続き各務原特別支援学校との直接交流は出来なかったが、ひばり祭へ本校生徒の作品や活動の記録を貸し出し、交流を継続することができた。また、社会福祉協議会などと連携して行う募金活動などで、地域社会の一員である自覚を高めることができた。
- (6) 各方面で、教員のサポートのもと、生徒がリーダーシップを発揮し主体的に活動できた。

改善すべきこと

- (1) 次年度も生徒主体の形を継続・発展できるよう、教員側のサポート体制を整える。
- (2) 文化祭、体育祭など行事日程の変更や中止の決断が必要な場合は、他分掌などとも連携を図り、ゆとりをもって行事準備が行えるよう今年度より早めに決定したい。
- (3) 部長会の活動を活発にする。
- (4) 交流活動、ボランティア活動については、制約も多くあるが、参加した生徒の満足度の高い活動を検討し実施する必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

進んで奉仕する心をもって、環境整備に努めるとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身共に健康で明るく活力ある西高生の育成に努める。

- (1) 自己の健康管理に努める。
- (2) 環境の美化保全に努める。
- (3) 生命の安全に留意する。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|------|
| (1) 高い | ⑤ | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (3) 高い | ⑤ | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策として昨年度より ①毎朝昇降口での健康チェック、手指消毒、②教室等の消毒作業、③各教室、手洗い場にアルコール及び石けん液の設置、④食事の仕方の指導、⑤昼休みに換気を促す放送、⑥加湿器の設置等を進めてきたが、今年度はさらに ⑦黙食及び昼食時の見回り、⑧使い捨て雑巾の配布、⑨CO₂測定器の設置等新たな取り組みも始めた。
- (2) CO₂測定器の設置により、換気の基準を視覚化することができた。これからの季節に向けて有効活用したい。
- (3) オンラインにより「性教育講話」を開催した。HR での様子は把握できなかったが、生徒の感想は概ね好評であった。
- (4) 女子トイレに生理用ナプキンを設置した。
- (5) 毎月生徒の健康課題を踏まえた「ほけんだより」を発行し、健康への啓発を行うことができた。
- (6) 購買・生協の管理により、生徒・職員の厚生を継続できた。

改善すべきこと

- (1) 学校行事（定期健康診断・命を守る訓練・心肺蘇生法講習会等）は、昨年同様新型コロナウイルス感染症により、変更及び中止せざるを得なかった。今後新型コロナウイルス感染症対策とともに考えていきたい。
- (2) 火曜日の放課後会議がある日は掃除がなくなったので、より掃除の仕方・工夫の周知ができると良い。
- (3) 今年度美化委員の活躍の場が少なかったため、より学校に貢献できる場を提供していきたい。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 図書館活動の充実（読書促進・図書資料の整備・図書委員会の活発化・教科との連携強化）
 (2) 校誌『さくらぎ』の発行
 (3) 「芸術鑑賞会」の円滑な実施
 (4) ふるさと教育（地域課題探究型学習）の推進

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- (1) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
 (2) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
 (3) 高い 5-----4-----③-----2-----1 低い
 (4) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

(1) 図書館活動の充実について

ア 読書週間に合わせたイベントの他、生徒の個性あふれる「よむよむザウルス」（図書委員）・「推薦図書一覧」（全職員）の発行や展示の工夫によって、読書を促すことができた。

イ 「朝の読書」は7年目に入り、その意義・効用について共感と理解が深まった。

ウ 図書委員が主体的に活動し、「読書週間」「朝の読書」などの広報活動に積極的に取り組んだ。

エ 探究型の調べ学習で図書館を利用する授業に対して、教材となる資料を迅速に揃えてサポートすることができた。

オ 図書館主催の「教養アップ講座」が恒例行事として定着してきた。

(2) 校誌『さくらぎ』は、見直しを重ね、「学校の記録を残す」というスタンスで印刷製本した精度の高いものを発行した。今年度も同様のものを発行する予定。

(3) 芸術鑑賞会は昨年度から延期されていた「N 響金管トップメンバーによるアンサンブル」を予定していたがコロナ感染予防対策のため中止。次年度に同内容で実施予定。

(4) 「ふるさと教育」は1、2年次生が総合的な探究の時間などを活用して、昨年度の実施内容を踏襲しながら年次、教務部と連携し、岐阜大学教授や社会人講師、各務原市役所の方々、年次の先生方の協力の下で実施することができた。昨年度実施できなかった1年次生の施設見学を実施することができた。2年生の市役所との交流は、データ等のやりとりで実施することができた。生徒たちにとって、地域社会について知る良い機会となった。

改善すべきこと

(1) 図書館を利用した探究型の学習について、関係教員との事前打合せをしっかりと行い、資料準備や参考文献をさらに円滑に進めたい。また、教科だけでなく分掌や年次とも連絡を密にして関連資料を整備し、その展示を工夫したい。

(2) 貸出冊数を増やすための工夫を凝らし、より多くの読書体験を積ませたい。授業等での図書館活用も一層推進する。

(3) 新しい図書館システムを有効に活用できるよう他校ともより連携を図っていきたい。

(4) 「朝の読書」や「教養UP講座」を継続し、今後も行事として定着させていく。

(5) 芸術鑑賞会は今までの経緯から、外部会場に移動して行うことは難しいが、体育館でもあまり遜色がなく、生徒に満足してもらえる内容のものを選定・実施したい。

(6) 「ふるさと教育（地域課題探究型学習）」は地域課題探究型学習推進事業を受け、年次・教務部と連携し実施しているが、実施開始から3年が経過し、今後の運営や活動について見直しを図る必要がある。

涉外

1 本年度の当初に立てた目標

1 基本方針

地域及び生徒・保護者に根ざした PTA 活動の推進を行い、学校と会員との連携を図り相互理解を深めるために活動を活発化する。また、生徒個々の進路目標を達成するための支援を行う。

2 重点目標と取り組み

- (1) PTA 活動の充実 PTA 活動の活性化、家庭との連携重視、公正な会計の執行
- (2) 同窓会活動の振興 同窓会との連携・協力、同窓会活動への支援

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

| | | | | | | | | | | | |
|------------|----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| 1 基本方針 | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| 2 重点目標 (1) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) コロナ禍で制約のある中、PTA と学校が緊密な連携を取り、信頼関係を深めることによって、楽しく活発な PTA 活動を行っていただいた。
- (2) PTA 役員を選出において現役員が合格発表の当日に尽力し、新役員を選出している。HR 正担任の負担がかなり軽減されている。
- (3) PTA 総会は書面による表決となったが、789 票（94%）の回答があり、非常に円滑であった。保護者へのアンケート結果は肯定的評価が高く、昨年度に比べると上昇した。（下記※7月実施）
※学校は、PTA や部活動講演会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。（95.8%:+4.2）
- (4) 球技大会に PTA くじ引き大会を実施した。PTA 役員の方々が主体的に、計画から実施まで楽しみながら積極的に取り組んでいただけた。役員の方々も和気藹々とした雰囲気の中で良い関係を築くことができている。参加券を生徒に事前に配布することで参加率が大幅に改善された。
- (5) PTA 研修会は、参加者 14 名と少なかったが、内容が濃く、参加者には好評であった。（昨年 27 名：52%）
- (6) 学校行事や部活動の大会が中止となる中、ページを減らしながらも西高だよりを予定通り 2 回発行することができた。

改善すべきこと

- (1) PTA 大学見学会は、国公立・私立、文系・理系に配慮しながら、愛知県内を候補に来年度以降も実施していきたい。
- (2) 30 周年から 10 年間のデータ管理がしっかりできていない。50 周年記念誌に向けて必要なデータを管理する必要がある。

【意見・要望・評価等】

- ・教職員が学校をよくするため、生徒のために頑張っていることがよく分かった。新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しないことから、対応はいろいろと難しいこともあるが、より良い学校となるよう教職員の頑張りを期待する。
- ・各部で高い目標が掲げられ、コロナ禍で対応が難しいにも関わらず、真摯に取り組まれた結果、高い達成度になっている。ただ、業務量の低減目標について達成度が低いことは残念である。難しい問題ではあるが、今後も引き続き努力することを期待する。
- ・Classiの活用、ICT機器を取り入れた授業を推進することで、生徒一人一人の学習状況の“見える化”を実現でき、授業や指導方法の多様化に合わせ、様々な機能で教員、生徒をサポートできている。
- ・コロナ禍において、対面とオンラインのハイブリッド授業等、ICT機器を取り入れた授業ができたことは良かった。また、単位制高校として、生徒が学びたい科目を学べる環境が提供できている。PTA活動も一部中止になった事業もあったが、日程の変更など工夫し、実施できたものも多くあり良かった。
- ・地元各務原の高校として、生徒が地域への興味・関心を高めることができるという点において非常に重要な事業である。1、2年次とも、地域の多種多様な業種の講師の話聞き、また、市役所職員の話も聞くことができ、生徒も地元に対する愛着に繋がった。教員もコロナ禍で講座の設定など大変だが、生徒にとっては貴重な経験になった。
- ・地域課題探究型学習の具体的な取組内容や生徒の声など興味がある。高校生の段階で、大学の教員や事業者などの話を聞くことは、学校の学び以上に意義のあることである。このような機会を通じて、生徒が自分の興味・関心に気づき、進路として目指すものを見つけられることを期待している。
- ・地域課題探究型学習推進事業は良い取組だと感じるが、教員の負担は相当大きいのではないか。コロナ禍で事業の実施に難しいところが多々あったと思うが、ここまでできて良かった。机上で学べない貴重な取組であるので、来年度以降も継続されることを期待する。